

## ◆奨励賞◆

### ワンクリックで済ませないで

金 目 中 学 校 三 年

松 本 結 花

大変な時代になってきた。私達はAIに囲まれて暮らしている。まず、掃除機やスピーカー、数年前からはショッピングモールなどのインフォメーションとして、生活において更に身近な形で使われるようになってきた。他にもスマホの中とか、ファミレスとか、数えだしたらきりがない。それほど、AIの技術はここ数年で素晴らしい飛躍を見せている。最近は何んと創作をするようになってきた。創造的なことをするのは難しいと言われていたのに、驚くべき事だ。そんな、少々出来すぎなAIについて一緒に考えたい。

まず、創作の点で認めなければいけないことがある。AIの技術はすごい。笑ってしまうような動画も作れるし、単語で指示するだけでいくらかも絵を生成できる。実際に、『目を閉じて笑いながら、部屋で音楽を聴く女性』という文で試してみると、三十秒も経たないうちに条件にピッタリのイラストが四枚生成された。こんなにかゆいところに手が届くようなことが誰でも出来るのだ。しかも物によっては無料で。それはそれは便利なことだ。積極的に使われるのも無理もない。

だが、実を言うと私はAIの創作物というものが好きではない。SNS上での批判から先入観で苦手意識を持っている部分もあるが、そこを除いてもやはり絵を描く人間として好ましく思わない。そんな立場からこの現

状を見てみる。

先程使用したようにすぐ手に届く物になったAIイラストを例にAIに対する気になる点について考えよう。私が一番複雑に感じるのは、AIの長所である『とても簡単に絵が生成できる』という部分だ。この世の絵は、人が魅力的な構図を考え、一本一本線を描き、こだわり抜いて色を塗り、培った技術を活かして一生懸命に作成しているものだ。なのに、そんな「絵」がAIによりたった数秒で、学習され生成される。そして評価を得ることがなんだかやるせなく感じる。絵描きの努力は、その作業の何倍だということか……。

残念に思うのはその部分だけではない。最近では、ゲームのイラストや曲のイラストにAIイラストを使用する物をよく見るようになった。数年前は人が描いていた物をAIに任せ始める。人の仕事が奪われAIの役割が増える。これは創作に限った話ではない。ChatGPTなど便利なものが誰でも使える時代になった。質問すればとても良い答えを出すので、私達は「努力すれば自分ですること」を頑張る機会が奪われかけている。

このままAIに背中を預けてしまうような未来になっていくと、いつか何でもAIに頼るような伸びしろのない時代が来てしまうかもしれない。AIは今後も進化し、おそらくもっとクオリティの高いものを生成するようになる。そんな時代だからこそ、今一度AIとの付き合い方について考えてみてほしい。